

関東ふれあいの道を歩く（東京）④歴史のみち

2020年 5月 1日 池内淑皓

2020年（令和2年）2月23日（日）、2月に入って暖かい日が続き、快晴の今日上川乗（川苔）から浅間尾根を通り弘沢の滝に抜ける道を歩いた。

この道は江戸時代、武蔵五日市から甲州に抜ける甲州中道として使われていた歴史ある道となっているし、上川乗（南秋川）から浅間尾根を越えて弘沢方面（北秋川）へ抜ける道は、集落の生活道路でもあった。

新型コロナ騒ぎが起きる前に歩いておいてよかった。



「関東ふれあいの道（東京）④歴史のみち」概念図（首都圏自然歩道連絡協議会）

武蔵五日市駅→上川乗（苔）バス停スタート→浅間嶺→時坂峠→弘沢の滝→弘沢の滝入口バス停ゴール



今日の電車の最寄り下車駅は、JR五日市線の「武蔵五日市駅」



快晴の休日ともなれば、人気登山コースの多い数馬行きはバス二台の行列となる。



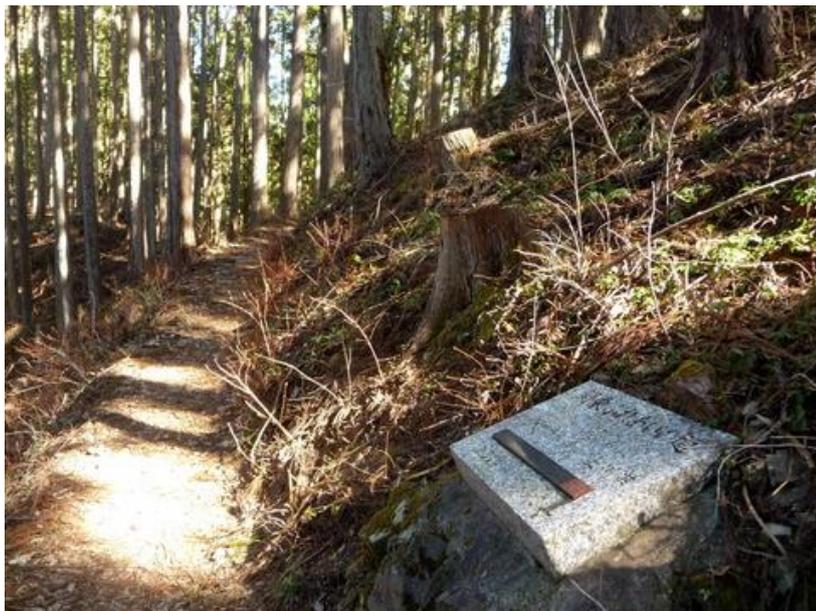
乗車して40分（710円）、「上川乗」（旧字は川苔と書く）バス停に着く



東京都檜原村は江戸時代から薪炭、林業で栄えた町。今でも兜造りの家が並ぶ
登山コースはバス停から数馬寄りへ50m先、スズキ自動車店脇の小径に入る



まずは杉林の中、尾根に向かう取り付け林道を登る



尾根道に取り付いたら石標が出て来た。川乗からまだ1kmの距離だが、安心感が生まれる



川乗の集落が見える



快適な稜線の尾根道に出た、冬の日差しは10時過ぎても、横から差し込んでくる



浅間嶺に続く尾根に出る、この尾根は浅間尾根と言ひ、古甲州道と云われる



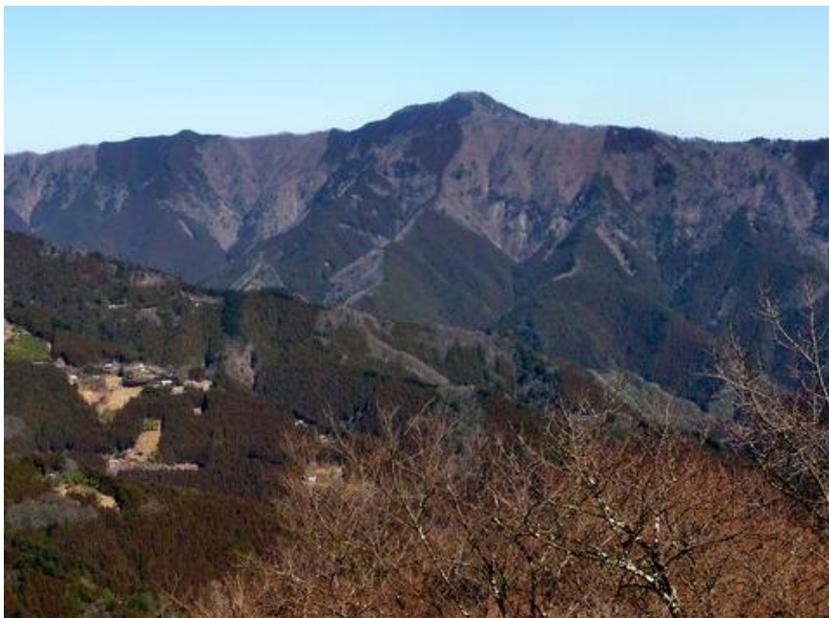
浅間嶺に到着、標高903m。富士山も見える見晴らしの良い頂上だ



風もなく穏やかな日和、お弁当を広げるには最適



左に目をやれば北秋川の谷を挟んで、御前山（1405m）が良く見える



右に目を転じれば、大岳山（1266m）が良く見える。いずれも若い時登った奥多摩の山々達



下山は東に道を取り、雑木林の尾根道を緩やかに下る



なかなか快適な傾斜だと思ったら、此の辺りは昭和の頃スキー場であったと説明にある。当時は雪も多かったのだろう。



傍らの石標には、北秋川橋 4.1 k m ⇄ 3.8 k m 上川乗とある、この辺りで半分が



尾根は一旦溪谷に出て小沢沿いに下る、と、



兜出造りの一軒家にぶつかる。水車があり、しゃれた店構えが現れた。瀬戸沢の一軒家と言ひ、江戸時代巡検使の休息所跡だと説明坂にあった。



どうりで屋敷前のこの道は、武蔵五日市から浅間尾根を通り、甲斐の国に抜ける古甲州道だったのだ



古街道の傍らにある社は、大山祇神の額が架かる



ここの案内板には、官林山巡検の道と記述がある、木曾の檜林と同様江戸幕府が監視していたに違いない



歴史ある「檜原村」の絵図が掲げられていた、天正時代檜原村に砦があったと記す



「時坂峠」南・北秋川集落の人達が行き交った生活道路、江戸--甲州を結ぶ道は薪炭を載せた荷駄がここを通ったと伝える



「払沢の滝」ゴールの北秋川に下ると、10分程で「日本滝百選」の一つ “ほっさわのたき” がある。四段からなり全長 60m、下の滝は 23mで上部は見えない。冬は氷瀑が見事だと言う



今日のゴール地点、払沢の滝バス停に着く、歩行距離 12 k m、4 時間弱

[コースタイム] 武蔵五日市バス停 (9 : 00) → 上川乗バス停 (9 : 40) → 浅間嶺 (11 : 10-11 : 50 昼)
→ 時坂峠 (13 : 00) → 払沢の滝 (13 : 45-14 : 00) → 払沢バス停 (14 : 10-14 : 28 発) → 武蔵五日市駅 (14 : 55)
この項完

「関東ふれあいの道歩く 東京 ⑤鍾乳洞と滝のみち」に続く